

1. 環境分野にとって今年はどうな年？

11月にCOP30が終了しましたが、適応資金を2035年までに3倍にする決定と「公正な移行」の枠組みが打ち出されたのは前進ですが、「化石燃料からの段階的撤退」や「大幅な温室効果ガス削減の明記」は合意文書から外れ、全体としては残念な結果でした。

また、国連環境計画（UNEP）は11月4日、2024年の世界の温室効果ガス排出量が二酸化炭素換算で過去最多の577億トンに達したとする報告書を発表しました。対策を強化しなければ今世紀中に、パリ協定目標の1.5度には遠く及ばない最大2.8度の上昇になると指摘しています。2025年の今年は更に心配です。

海では、気候変動、水温上昇、汚染等の複合要因で、サンゴの白化現象や赤潮の発生も進んでいます。マイクロプラスチック問題も深刻です。

環境の改善のためには、「政策」「市場」「技術」の三本柱を同時に動かす必要があります。国際協調は何よりも大切です。しかし世界では、米国のパリ協定離脱等、国際協調に陰りがみられ、再エネへの補助金が縮小されたり、風力や水素のプロジェクトが中止になるなど、三本柱のどれもが困難に直面しています。

2. 地球が壊れてしまったら、行き場がなくなる。

SFの話であった「火星への移住計画」が、「イーロンマスク氏のスペースX社の火星100万人都市建設宣言」のように現実味を帯びてきています。

「火星に行く前に地球を何とかしなければ…」と思うのですが、実は、「宇宙に人類が移住した未来」を舞台にしたアニメに、人気を博した「機動戦士ガンダム」があります。

その設定は、「人類は、悪化する地球環境への負荷を減らすため、地球の増えすぎた人口の宇宙都市への移民を進めました。しかし、次第に地球連邦政府が腐敗し、特権階級化し、宇宙移民中止に政策転換したことにより、「地球への負荷」や「宇宙都市からの搾取」が広まり、これに反対する宇宙都市の一つが「ジオン公国」として、地球連邦政府に対して独立戦争を挑んできた。」というものです。

3. 環境問題も、国家間の争いも、どこか現在の状況に似ている。

ジオン公国軍で地球連邦を攻めてきた「シャア」も、地球防衛軍でガンダムスーツを着て戦う「アムロ」も、「地球を大切にしたい」思いは共通です。

ただ、その解決方法は大きく違い、争いが続きます。

シャアは「腐敗した人類が変わらない限り未来はない。大規模な破壊や犠牲は止むなし」の変革思想で、「地球連邦政府を解体し、地球から宇宙への移民を進めて地球を救おう」、との考えです。

地球連邦内にいてシャアと戦うアムロは「人は分かり合える。争いをせず、少しずつでも共存できる未来を創る。」との平和思想で、ガンダムに乗ってシャアと戦います。

4. 戦う二人も「地球を大切に」という思いは同じ。

「地球を大切にしつつ人類も生きていくため、何をするか？」との問いは、地球の人口問題・都市集中問題・地球資源の争奪・エネルギー問題など、今の環境危機への問いと同じです。

アニメでは、「戦いは無くならない」現実が続くのですが、「人が変わることを信じる希望」を残して展開していきます。アムロとシャアの「葛藤と変化の物語」としても奥深いストーリーと思います。

5. 「理想を求めての葛藤」というのは常にあるが…戦争は…。

「戦争は最大の環境破壊」なので、戦争で課題は解決しないことも伝わってきます。では、ガンダムのなかの「名言集」をいくつかご紹介します。

- 「地球を使い尽くして争うのか、それとも知恵で生き残る方法を探すのか？」
- 「人は同じ過ちを繰り返す…まったく！」
- 「地球が持たん（ない）時が来ているのだ！」
- 「地球に住むものは贅沢すぎるのだ！」
- 「今の地球に人間の魂を救える気がする！」
- 「生きるために戦う。それが間違っているのか？」
- 「この世界に正しい答えなんてない。ただ…理想があるだけだ。」

6. ガンダムの全編は環境テーマ満載？

ガンダム全編は壮大で、私が見たのはほんの一部です。実は、ガンダムに環境テーマが満載と知ったのは最近です。今日の話は、少し観たり調べたりしたことを纏めてみたものです。正月にこの予習を踏まえ、ゆっくりと全編を観てみたいと思っています。

7. 環境の視点で観ると、気づくことが多い！

環境の視点は、いろいろなことを気づかせてくれます。

「ボーっと生きてんじゃねーよ！」と言われないう、気づきを大切にしていきたいと思います。

以上